

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	---	----------------------	---

評価計画					自己評価				改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	月	i	j	k	n	l 評価		m	
					達成	達成	達成度				評価	結果と課題の分析		改善方針
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校	課題発見・解決学習に必要な力を高める学校	1 児童につけたい力を分析・整理する。 2 総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の単元を開発する。 3 導入時に学習のねらいと見通しを児童に持たせる。 4 単元終了後にチェックシートで振り返りを行う。	・系統表完成 ・中・高学年、各1単元実施 ・チェックシートの全項目の50%以上で有効	100% 70% 76.9%		100% 70% 100%	B	①低、中、高学年のそれぞれの実態や発達段階に応じて系統表を作成し、児童と共有化できた。 ②単元については、主に中・高学年で単元開発中である。(年度末までに1単元は開発する) ③全学年で、ねらいと見通しをもたせることはできている。課題発見・解決学習に必要な力の見取りを行うことができるチェックシートを作成し、児童と共有することができた。思考を深める手立てとして、思考ツールの活用や思考のギャップを取り入れたことが効果的だった。	個々の学びを深める振り返りの活用 ①系統表をもとに児童と成長を振り返る場をつくり、次に繋げる。 ②児童の考えを引き出し、問題解決に向けて教師がファシリテーターの役割を果たしながら単元開発を進める。 取組の継続・充実 ③他教科で活用している思考を深める手立てを積極的に活用し、課題発見・解決学習に必要な能力を育成していく。 児童の学習意欲を喚起する多面的な学習の設定 ①機械的な漢字練習だけでなく、漢字の意味や熟語など多面的に取り上げ、漢字を身に付ける楽しさを持続させられるような学習過程を仕組む。 個人差補充の充実 ①ICTを活用し、個人の苦手なところを中心に繰り返し補充し、漢字の読み書きの力を育成していく。	4			・児童の実態に合わせて、丁寧な取組が行われている。 ・少人数の良さを生かした、細やかな指導が行われている。 ・個々の振り返りが次の取組に生かされているところが素晴らしい。 ・先生方の取組に頭が下がる思いである。
		既習事項を学習や生活に生かす学校	1 「漢検」受検経験を生かした漢字学習を展開する。 2 既習事項を踏まえた学習活動の設定を図る(国算理)。	・漢字テスト(単元末、学期末等)の正答率95%以上 ・既習事項を踏まえて学習を行った授業の割合	80% 全単元の70%	82.2% 96.6%		100%	A		①低、中・高学年は漢字学習の定着を図ることができている。高学年(第5学年)は個人差が大きい。 ②全学年で既習事項を踏まえた学習を行うことができた。 前年度からの取組が継続できている。	4		
豊かな心と健やかな体の育成	自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土の醸成	他者の良さや頑張りに基づき、学び合う雰囲気(継続)	1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。	・他者の頑張りに基づき、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張りに基づき、自らの取組に生かした児童の割合	達成児童100% 達成児童70%	94% 78%	94% 100%	B	①昨年度からの継続した取組の中で、各学級ごとに「〇〇マイスター」として他者の頑張りや推薦し合う姿が見られ、肯定的に認め合う風土はできている。 ②「弟子入り(自己の取組に活かしている)」が明確になるような掲示をし、取組の見える化を図る。教師からも積極的に価値づけ、児童が他者の取組から学ぶ姿勢を引き出す。	学校全体の取組への拡充 ①引き続き、マイスター認定週間(日)を学校全体で設定して互いに認め合う場をつくり、意欲付けをする。 ②「弟子入り(自己の取組に活かしている)」が明確になるような掲示をし、取組の見える化を図る。教師からも積極的に価値づけ、児童が他者の取組から学ぶ姿勢を引き出す。 それぞれの取組についての振り返り(フィードバック)の充実 ①学校行事(特別活動)や体力づくり、日々の生活目標に対してなどの取組状況を個々にファイルに綴じて管理するなどしてポートフォリオ評価を行い、児童自らが自身の成長に気付ける工夫を講じていく。	4			・互いの良さを認め合ったり、自分に取り入れて伸び合ったりすることはとても良い。今後も継続してほしい。 ・マイスターの取り組みは、児童の「明日も学校に行きたい」という意欲づくりにつながっていると感じる。
		自身の立てた目標に向けて、努力を惜まない児童の育成(継続)	1 もっと成長したいと思わせる場の設定を工夫する。 2 目標と取組状況を見える化し、努力を称賛する。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	86%	86%	C	①各月ごとの目標をスモールステップで設定し、自己評価や他者評価をしながら次月の目標設定につなげていったり、学期末の自分の成長を色分けなどで客観的に評価したりする取組が有効であった。		4			
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	本校に対する住民等の関心の持続・向上	1 児童のメッセージ、学校生活の様子(写真)等をまとめた便りを作成し、配布・掲示する。 2 可能な範囲で、学校を公開する。	・「さぎっ子応援団」の新規登録・登録更新数	登録家庭・事業所数 昨年度比±10%	50.2%	50.2%	D	①・1学期分の学校生活の様子・児童のメッセージ入りの掲示物を回覧板にて各地区に回覧し、喜びの声をいただいた。 ・すぐるにて地域チャンネルを開設し、学校に関する情報を積極的に配信することができた。「さぎっ子応援団」の新規登録・更新数は現在の時点で昨年度より少ない。	取組の継続・充実 ①新しい生活様式のもと、学校と地域とのつながりの持ち方や、学校の取組を伝える方法を工夫する。(従来の方法に加えて、ICTの活用、オンライン発信、CDの配布等、地域と連携しながら行う) ②・ICTを積極的に活用し、新システムへの慣れを促進する。 ・ICTを活用できる業務内容の精選し、確実に実践していく。 ・ICT活用にかかわる事務処理速度の向上等の研修を充実させる。	4			・学校は熱心に取り組んでいる。学校のみではなく、地域住民の意識向上にも取り組んでいきたい。
		教職員の勤務時間外(年間360時間以内)	1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 勤務時間内に事務処理時間を確保する。 3 校務支援システムを効果的に活用する。 4 効率的な職務遂行を推進する。	・個別の勤務時間外(勤務時間)の積算	月30時間×実施済月数以下100%	72.5%	72.5%	C	②・保護者・地域の方の理解と協力のもと、優先順位や効率を考えた働き方ができるようになっている。 ・報告書類等のペーパーレス化、教材データの共有が業務の効率化につながっている。		4			・コロナ禍でできることは限られるが、学校の今後のビジョンが見えるような発信があればより良い。

【j: 自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: 分からない。